

# 第18回 まちとすまいの集い

## しなやかな人・建築・都市

日時 | 2016.11.19 (sat) 13:20-16:30

会場 | 名古屋大学ES総合館 ESホール

参加費 | 無料 (定員 200名) 要申込

主催 | 名古屋大学 環境学研究科 都市環境学専攻 建築学教室

後援 | 日本建築学会東海支部、空気調和・衛生工学会中部支部、建築設備技術者協会中部支部、名古屋大学減災連携研究センター、愛知建築士会、日本建築家協会東海支部、なごや環境大学、名古屋まちづくり公社

「まちとすまいの集い」は、市民の皆様を対象に、名古屋大学建築学教室に所属する教員がそれぞれの専門の立場から講演させて頂くものです。第18回となる今年は「しなやかな人・建築・都市」をテーマに開催します。

現在、地球環境や社会が抱える諸問題において、これまでのような問題解決に向けた一直線・一方の硬直した対策に加え、新しい「しなやか」さを持つ対応方法が議論されています。災害問題では「減災」や「resilience」といった考え方、温暖化問題では「適応」といった考え方、人口バランスの変化や人口減少問題では「減築」「縮退」や「再編」といった考え方がこれに該当します。

建築学で取り扱う「人・建築・都市スケール」の諸問題に対して、将来にわたり持続可能な社会を目指し、どのように「しなやか」に向き合い、対応していく必要があるのか。計画・意匠、環境・設備、構造・材料の各分野の先生に論じて頂き、「しなやか」というテーマから横断的に考えていきたいと思います。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

### 講演1 清水 裕之

「持続可能な緑地管理とそのマンパワーを考える。-景域管理作業量を測る-」

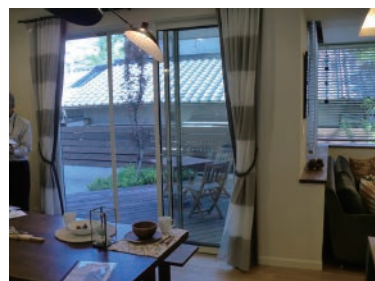
緑は私たち人間を含めすべての生き物が健康に過ごすためには必要不可欠です。水田、畑、2次林などによって構成される里山、山間部の人工林、都市部の街路樹、公園、河川敷、庭園などは人の手間ではぐくまれてきました。しかし、人口減少はそれらの管理に赤信号をともしています。これらの緑にどのような手間がかけられているかを眺めることで、持続可能な緑の在り方を考えたいと思います。



### 講演2 久野 覚

「しなやかに暮らす」

住宅設備がよくなり、エネルギーを使えば、ある程度快適性を得ることができます。でも住宅そのものの性能が非常に大事で、そうするとエネルギーも少なく健康で快適になります。さらに自然をうまく使い、住まい方を工夫するともっと効果的です。



### 講演3 長江 拓也

「建築技術としなやかな回復」

数年に一度、日本のどこかで強烈な直下地震が起きています。南海トラフ巨大地震は今世紀前半に確実に起きると予測されています。大地震の後に、都市、社会がしなやかに回復する、その能力向上には、確かな建築技術に基づく着実なハード整備が不可欠です。



お申し込み | お名前・ご所属・ご住所・電話番号・E-mailアドレスをご記入のうえ、下記までE-mail、Faxまたは郵送にてお申し込みください。

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学  
環境学研究科建築学教室まちとすまいの集い事務局 担当:穂積  
TEL:052-789-5233 FAX:052-789-3773  
E-mail:machi@nuac.nagoya-u.ac.jp